

「花見川地区学校適正配置地元説明会」要旨

1 日 時・場所・参加者

(1) 第1回

ア 日時 平成23年2月25日(金) 午後7時～9時

イ 場所 千葉市立花見川第二中学校体育館

ウ 参加者 地域住民及び保護者等 56人

学校関係者 4人

花見川第二中学校 — 齋藤校長、平野教頭

花見川第三小学校 — 岡校長

花島小学校 — 石山校長

教育委員会 9人

西田教育総務部長

企画課 — 高須課長、戎谷主幹、古舘主幹、伊藤課長補佐、

加茂主査、山崎主査補、安井主査補、松木主任主事

(2) 第2回

ア 日時 平成23年2月26日(土) 午前9時～正午

イ 場所 千葉市立花見川第一中学校体育館

ウ 参加者 地域住民及び保護者等 119人

学校関係者 7人

花見川第一中学校 — 山本校長、平江教頭、遠藤主事

花見川第一小学校 — 蜂谷校長

花見川第二小学校 — 佐々木校長

柏井小学校 — 若山校長、永島教頭

教育委員会 8人

企画課 — 高須課長、戎谷主幹、古舘主幹、伊藤課長補佐、

加茂主査、山崎主査補、安井主査補、松木主任主事

2 次 第

(1) 開 会

(2) 主催者挨拶

(3) 学校適正配置について

(4) 質疑応答

(5) 閉 会

3 概 要

(1) 主催者挨拶

第1回：西田教育総務部長、第2回：高須企画課長

(2) 学校適正配置について

企画課安井主査補が、「千葉市の学校の状況」「千葉市学校適正配置実施方針の概要」「花見川地区の学校の状況と適正配置の方向性」「今後の予定」について説明を行った。

(3) 質疑応答

説明を受けて、質疑応答が行われた。

4 質疑応答要旨

(1) 第1回

Q 花見川地区の統合の前に、背中合わせに建っている花見川二中と天戸中を統合しないのは何故か。建ったときは理由があったのかもしれないが、現状を考えると市民感覚としては解せないものがある。千葉市として、まず配置を考えて欲しい。

A 話し合いを始めるに当たり、どこの範囲で話をするかを決める。学校区と地域コミュニティは密接な関係があり、近くにあっても学校区が異なると抱えている文化も異なるので、まずは花見川地区という枠組みで、教育問題、教育環境を考えながら皆さんと一緒に話し合っていきたい。話し合いを進める中で、隣接する区域も含めた話し合いが必要であるということになれば、隣接する区域にも入っていただくことになる。もとは花見川五小の場所が中学校用地だったが、児童の増加で小学校になり、急遽中学校用地を買収して花見川二中を建てた。中学校の位置が変わってしまったことで、地域の皆様にもご不便をおかけしたところがあるが、理解いただきたい。ちなみに現在、天戸中は適正規模である。

Q 第一次適正配置の取り組みの中で統合された花島小の先生方に、統合のメリット・デメリットについての生の声を聞かせていただきたい。

A 花島小学校の統合後に先生方から聞き取り調査を行った。まずはこの調査結果について、事務局から報告させていただきたい。千葉市で初めての統合校ということもあり、課題があったことは事実である。

まず児童たちだが、統合前に交流はしていたものの、行事や学習において混じり合っとうまくいくには少し時間がかかった。統合後1～2年目は環境の変化もあり、高学年は旧校意識が残っていて馴染めないところもあったが、低学年は統合後すぐに一緒に遊び交流を深めていった。3年目から新しい校舎に移り、高学年も落ち着いた環境でのびのびと人間関係を育み、学級活動等で活躍するようになったと聞いている。

また保護者会・PTAといった組織が一緒になることについても、今までの歴史ややり方の違いがあったことから時間がかかった。こういったことに対し、学校としては早く一つになり、うまくやっというプロジェクトチームを作り改善していったが、時間はかかったと聞いている。

先生方は、職員が適正な配置になったことできめこまやかな指導をする少人数指導をする担当教員が配置できた。学校運営面でも校務分掌が軽減され、子どもたちに接する時間的・精神的ゆとりができ、多面から対応することが出来たと聞いている。

最大の反省点は統合が急激に決まり、統合前の学校間の交流が少なかった点である。花島小は千葉市で最初の統合校であったため、学校運営のみでなく、子ども同士・保護者同士の交流という点で課題が残った。こういったことも正直に地元代表協議会でお話しするので、それを踏まえて協議していきたい。

A (花島小学校校長) 現状をお話しする。花島小は現在統合5年目だが、私は統合4年目に赴任した2代目校長である。お聞きになりたいのは、端的に言えば統合して良かったか悪かったかということかと思うが、結果を見ると統合して良かったのではないかと思う。私が赴任したのは新しい校舎に入って2年目であったが、新しい校舎で感じが良く、学級数が増えて活気が漲り、いい学校になっていると思う。統合当時については体験していないので聞いた話になるが、花見川四小と五小は隣にあったとはいえ、それぞれの学校文化があったものが一緒になることで子どもたちの中にも不協和音があったそうだが、それについては子どもたち・地域・保護者が時間をかけて準備をしていくことで十分に統合についていい方法を考える必要があるのかと思う。現状は非常にいい状態であると報告させていただく。

Q 適正配置による統合が行われると、小学校はどこになるかわからないが、中学校は花見川一中になるだろう。一中よりも天戸中が近くにあるのだから、今も行っている人もいるし、天戸中に行かせて貰ってはどうかという話が出てくると思う。みんなが天戸中に行くと地区連・育成委員会などの問題が絡んでくる。自由に中学校を選べるようにするのか、学区を変えるのか、考えを聞かせてもらいたい。

A 千葉市では学区制度を取っている。花見川地区では、一中区・二中区があり、その中に小学校区がある。まず、地域の組織との組み合わせである。町内自治会連絡協議会・青少年育成委員会といった地域の方々の協力の中で学校は運営されていくものなので、そういった枠組みで考えていきたい。

Q 今、実際に天戸中や作新小に行っている子もいる。はっきり線引きしてもらえるのか。

A 適正配置は統合のみでなく、学区の見直しも併せて話し合うこともあるので、これから地元代表協議会の中で出てくれば皆さんで話し合っていたいただき、検討することになる。

Q この説明を聞いて、確かに少子高齢化の時代なので統廃合は基本的に賛成だが、いろいろな特殊性を持っているということ、地域のエゴでなく、客観的・合理的に考えてもらいたい。一番大切なのは、子どもたちのことを考えるということである。柏井小区は八千代に越境している子どもも多い。一学級何人ということだけではなく、地域のことを考えて進めて欲しい。

A 学校適正配置を考える上で、一番は子どもたちにとって最も良い環境を整えることである。そこはぶれずにやっていきたい。この地区は、私どもも歩いたりしているが、それぞれの地区のいい点等を地元代表協議会を出して共通認識をした上で、子どもたちのより良い教育環境を考えていきたい。

Q 教育委員会の原案を教えてください。少しは構想があると思うが、説明で何も触れられていない。

A 第一次適正配置では隣り合った相手校を対象にして統合するということを出して、当初から花見川四小と五小を統合するということから入った。これに対し第二次適正配置では、地域コミュニティを壊さず、いわゆる中学校区、ここでは花見川一・二中区だが、そこを総合的に見ていくことにしており、どこを、ということはまさにこれから地元代表協議会で話し合っていていただく。4月に統合する真砂や高洲もそういったスタートであった。噂があることは事実だが、教育委員会での原案や腹案は持っていない、地元代表協議会で話し合っていていただくということである。

地元代表協議会では大変なエネルギーと、地域の独自性を考えてご苦労をおかけすることになるが、皆さんの地域を共に良くしていただくということで、教育委員会で「こうしてください」と示すことはしない。みなさんの意見で進めたいと考えているのでご理解いただきたい。

Q 今回の説明会の後に地元代表協議会を作るということだが、この協議会は代表の方々に構成される。代表ではない人たちは、どのように意見を伝えればいいのか。

A 最も大事な点だと思う。

地元代表協議会だが、設立後は約二ヶ月に一度開催される。委員の方には、次回の協議会が開催されるまでの約二カ月の間に、話し合ったことを学校・自治会等の各団体に下ろし、アンケートをとったりしながら意見を集約していただき、次回にそれを持ち寄って話し合っていていただくという方法で進めている。

他の地区でも代表になった方が各団体に下ろして集約しているが、千城台地区ではそれでは十分に周知ができず、苦労しているということで、更に周知方法を踏み込み協議会だよりを配布することになった。協議会だけで進んでいて、話が見えない、という声を聞くこともあり、事務局としてもしっかり受け止めて進めたい。

Q 学校統合の周知ではなく、代表ではない方の意見をどう伝えればいいのかということだ。それをどのような形で吸い上げてもらえるのか。

A 地元代表協議会は各団体の代表が委員となって議論するが、あらゆる手段を使って母体に周知し意見集約をする、キャッチボールをお願いしている。委員個人の意見を話す場ではなく、あくまで母体の代表として意見を集約することで進めている。

Q 学校の統廃合は必要だろうと思う。この地区では、一方で高齢化が進んでいる。高齢者は階段が上れないので団地に住めない、ということがある。高齢化が進む中で、統廃合後に跡地をどう活用するか、それも十分に話し合っていていただきたい。実施方針に跡地を売るということもあったが、高齢化の中での施設づくりを考えてもらいたい。

A 学校適正配置実施方針で、跡施設利用の基本的な考え方の原則がある。その原則に基づき、教育委員会だけでなく、市全体で話し合った中で跡施設の活用方法を決定する。

- Q 第一次適正配置においては花見川五小跡地の有効利用を考えたが、耐震の問題もありストップしている。花見川五小は、地域の要望に配慮しながら施設を開放する計画であったはずだ。耐震工事ができない理由で、跡地利用の要望を反故にされるのでは、市は約束を守っておらず、信用できない。
- A 旧花見川五小跡地については我々も憂慮している。現在、千葉市の財政は厳しい状況であり、市民生活に密着した医療・介護・子育て等に優先的に予算をつけざるを得ず、跡施設の工事が先送りになった。旧花見川五小跡地では体育館の耐震工事は終了し、体育館と校庭は利用していただいているが、校舎本体の工事が進んでいないことは現実である。ご意見は重く受け止め、跡施設の所管である市民局には本日の意見を伝えていきたい。
- Q 柏井地区は横戸小と柏井小に分かれている。ぜひ横戸の一番遠い地区から中学校まで歩いていただき、交通状況を確認して今後のことを検討してもらいたい。柏井地区の子どもたちは柏井小で遊ぶことが多いので、できれば柏井小を残してもらいたいと思う。
- A 現時点では一中区・二中区の枠組みの中で考えるしかないが、交通の面だけでなく、実感するために実際に歩くこと、今後もそういったことを続けたい。「ここを見てもらいたい」という意見があれば学校を通じて出していただければ、ぜひ見に行きたいと思う。
- Q 意見として聞いてもらいたい。私は5歳から花見川団地に住んでいて、今5歳のこどもがいる。1学年1学級は抵抗がある。1学年1学級になるなら統合するほうが良いと思う一方で、母校が無くなるというのは寂しい気持ちがある。また、花島小で統合時に高学年にトラブルがあったと聞き、中学校の統合を心配している。天戸中と花見川二中の統合は無理だと思うので、花見川一中と二中を統合するほうが良いだろう。もし学校間の反発があるのであれば、小学校の子どもたちにさえトラブルがあったのなら中学校ではどうなるのか、それが心配である。花見川一中区と二中区は全く違うので、それを念頭に置いて進めていただきたいと思う。
- Q 具体的なスケジュールは考えているか。いつごろまでと決まっているなら教えてもらいたい。
- A 真砂や高洲地区を例に挙げると、地元の話し合いは2年を目処に進めていきたいと考える。地域によって様々なものがあり、時間の前後はあるだろうが、花見川地区にとってより良い方向になるよう十分に議論してもらいたい。
- Q 柏井二丁目に住んで6年、息子は花見川一小に進む。新入生は1学級と説明を受けたが、自分は4学級で育ったので、複数学級になってもらいたい。

3点聞きたいが、1点目、資料3ページ目の下、適正配置のスケジュールを見ると、花見川区は平成20年度から始まっているようだが、既に何かしらの話し合いが進んでいるのか。

2点目、4月に統合される学校の具体的なスケジュールを聞きたい。

3点目、花島小の関係者や地域の方から、統合後の地域等への影響について聞きたい。

A 1点目、花見川区の話し合いが20年度から始まっているのではないかという質問だが、お配りしたリーフレット「学校の適正配置」の8番、「学校適正配置の進め方について教えてください。」の「1. 学校・保護者・自治会関係者等へ説明を行うとともに、「地元説明会」を開催」とある。この「地元説明会」が今日に当たるが、この前に学校・保護者・自治会の皆さんの所に伺い「これから適正配置を進めたいと思う」と話している、そのような歩みで20年度から進めたということである。第二次適正配置ではこのようなプロセスを踏まえて進めており、その際にはこのリーフレットや実施方針について説明している。

2点目、真砂・高洲地区の経過について、簡単に説明する。真砂地区ではH19.12に、高洲地区ではH20.3に地元代表協議会を立ち上げ、その後二ヶ月に1回程度開催し、真砂はH21.9の第12回協議会で、高洲はH21.9の第11回協議会で統合の要望書が決議され、教育長に提出された。その後統合準備会を約1年半、今年2月まで5回開催し、今年4月に統合校が開校する。協議会で約2年、その後1年半準備期間を取って十分に子どもたちや先生方の交流を図ってきたところである。

3点目については、この場で話を聞くことは難しいだろうが、地元代表協議会では花島小の統合後の状況や、統合の効果などの話も出ると思われるので、情報を提供しながら進めて行きたいと思う。

Q 花島小を卒業し、現在花見川二に通う子どもがいる。花島小の合併時に4年生だったが、やはり3年生くらいから子どもたちの中で色々な話や噂が出て、保護者なりに「こうなんだよ」と説明をするが、落ち着かないまま4年生を迎えた。私が見た限りでは、何か起きたわけではなかったが、4年生は落ち着かないまま過ぎ、5年生でクラス替えがあり落ち着いたかなと思ったら6年生になって卒業、という感じだった。不安な時期に落ち着かないのは、小学生だけではなく、中学生ももちろんそうだろう。統合はいいが、落ち着きが保たれればいいかなと思う。地区についてもうまく統合してもらいたい。その辺りをよろしくお願ひしたい。

(2) 第2回

Q いくつか教えていただきたい。

1点目、今回の話し合いに関して、全てを地元任せという話だが、話自体がどの学校も統合はいやだとか、統合は拒むという場合、一歩も進まなくなる。そういう時に話は無しにするという期限は設定しているのか。

2点目、実際に適正配置をするにあたり予算等によって適正配置に応じたほうがいい

のではないかという話もあると思うので、真砂等の地区の実際の予算案、実際にかかった費用、今回のような地元説明会等が始まってから決まるまでの日数、その間の協議の議事録が見せてもらえるといいと思う。

3点目、今回実際に統合が行われた真砂地区の学区、実際の学校の配置等の地図を参考にしてもらえると分かりやすいと思うので、今後花見川地区についての説明会等を開催する場合には、そのような資料を提示していただけるとありがたい。

- A 統合後も反対という意見があった場合どうするのか、期限はどうなっているのかということについては、地元代表協議会を設立し納得いくまで話し合いをしてもらうが、一定の目処を2年として話し合っていくことでお願いしている。統合という結論にならなかった場合の一例をあげると、例えば高洲高浜地区で小中学校の統合について話し合ったが、小学校については統合を進めるが、中学校については片方が適正規模校・片方が小規模校という状況にあるため統合するという結論に至らず継続協議ということで整理した。そのような形で、協議会の決定は我々も十分配慮していきたい。そもそも花見川地区で適正配置が本当に必要なのか、それによって良い効果をもたらされるのかという話し合いを、まず1年あるいは2年かけて行っていただき、必要だということになれば、統合について話し合ってください。他の地区も同様の流れで行っている。

予算的な面について、この適正配置を進めるにあたり、地元代表協議会に関係した予算はなく、委員には無報酬でお願いしている。協議会の資料等は教育委員会で用意する。美浜区の統合校となる校舎改修については、現在設計の予算を議会に諮っている。改修工事については翌年度で、更に高額の予算になる。学校規模、耐震状況などによって工事費は異なるが、およそ4億円程度見込んでいます。

真砂等の先行地区の学校配置図は、今後の説明会等の機会には用意したい。なお、今までの話し合いの議事録・資料、地図等については全て市のホームページに掲載しているので、ご参照いただきたい。インターネット環境が無い場合は対象地区の学校に議事録が置いてあるので、興味があればご覧いただきたい。

- Q 花島小の統合の話し合いについては、私どもと教育委員会と一緒に話し合いをして進めるということだった。先ほどの説明で跡施設利用の基本的な考え方が3つ示されたが、我々の旧五小の跡施設の要望について何も答えてもらっていない。花島小はみんなで作りに上げてきた。校庭と体育館は開放してもらっている、屋外トイレも作ってもらった、だが最終的に行われるはずの校舎の開放がされていない。それをきちっとしてから、次の統合の話をしてもらいたい。そうでなければ私は断固反対だ。旧五小の状況はひどい。この状況を置いて話を進めるのは後先が違う、きちっとやることをやってから統合の話をしていくべきではないか。

- A 花島小の統合についてご尽力いただいたこと、お礼申し上げます。旧花見川五小の状況は質問にあったとおり、平成20年4月から跡施設となっている。市として活用方法

を検討しているところであり、地域開放施設等の様々な案があるが、耐震基準に満たない校舎のため、まずは耐震工事をしなくてはならない状態である。体育館については耐震工事をし、校庭と共に開放しているところだが、校舎は現状のままとなっている。現在、千葉市は財政が厳しい状況で、脱財政危機宣言を行い、行財政改革を推し進めて乗り切ろうとしているところである。市としては医療・介護・子育て・教育に優先的に予算配分をせざるを得ず、旧花見川五小の改築工事が先送りになっている。今の跡施設の所管は市民局であるが、早期に工事ができるように検討している。現時点ではなかなか工事にかかれぬ状況ではあるが、今のご意見については我々もしっかり受け止め、所管に伝えていきたい。旧五小の状況を置いて話を進めるのは後先が違ふというのは、ある意味ごもっともな意見であるが、教育委員会としては子どもたちの教育環境を考えて適正配置を検討させていただきたい。統合が進むことになれば跡施設はできるが、実施方針のとおり、市全体として跡施設利用の検討を進めていきたい。旧五小については現時点でやらないという決定はしていないので、活用は進められると考えている。

Q この説明会が終わったら地元代表協議会を作って一部の人たちだけの意見で進んでしまうということが無いように、地元や保護者の皆さんの意見を言い合える、そういう場を何度も作って進めていただきたいというのが要望である。学級数の話が出たが、1学級何人かという話が出ていない。国が出している1学級35人というの適切なのかと疑問に思う。今の子どもたちはインターネットなどで情報が多様化し、知識が複雑化している。そういった状態で、35人・40人学級でいいのか、そういった検討もお願いしたい。

A 地元代表協議会は真砂高洲地区を例に挙げると約二ヶ月に一度開催している。各団体の代表が委員となっているが、母体に話し合いの内容をおろし、団体の要望を集めた上で、その次の話し合いに臨んでいただくという形にしている、団体に所属していない、意見が通らないという場合には、企画課に連絡をお願いしたい。協議会でこのような意見があったと報告して協議に盛り込めると思う。

学級の人数だが、今後の推計も含めデータを用意しているので、要望があれば提示したい。因みに今年度の千葉市の1学級の平均人数は、小学校は30人、中学校は33人である。

今回の説明会については、先日、未就学児のお母さんから企画課にお電話があり、小さい子どもを連れて行きたいが一中までは遠くて行けない、他に機会を設けてもらいたいという意見をいただいた。我々もこのような意見を吸い上げて、その方の地域の自治会長さんにご協力いただいで説明する機会を設けたいと思う。各団体、保護者会や自治会で説明会や勉強会の開催があってもいいだろう。そういう場に呼んでいただければ説明することも出来るので、いろいろな方法で地域にとって良い方向を見つけて行きたい。公立小中学校における40人学級編制は全ての学級を40人にするということではなく、40人を超えると学級が2つに分かれるということである。また、実

質的には千葉市も含め千葉県は38人編制である。国が35人学級編制という案を出している中で、現在、小学校1年生だけでも35人編制にしていきたいということになっている。その場合は36人以上で2学級にする。

Q 適正配置と聞くと、統廃合と思ひ浮かぶ。最終的には統廃合についての話し合いを行うものなのだろう。小規模校がまるで良くないというような話だが、私自身は40人学級7クラスという中で育ち、それが良いとも思わないし、柏井小に通う息子は30人学級2クラスで楽しそうにやっている。昔と異なり、インターネット等が発達して情報が活性化している中で、教師のコミュニケーションなどは教師たち自身が努力していけばいいのだろうと思う。そこで、小規模校がこのまま残る余地はあるのかという点と、地元代表協議会の合意形成の方法は多数決なのかという点、それを伺いたい。

A 小規模校が悪いということではなく、小規模校の良さを生かしながら、クラス替えが出来るようになれば、いろいろな人間関係の中で子どもたちが成長していける。地元代表協議会では、小規模校を残す可能性も含めて話し合っていく。また、合意形成は、多数決ではなく、あくまでも全体の合意を、協議会として一つの結論に達したものを教育委員会として尊重していく。

適正配置では、学校規模も大切だが、配置もある。通学距離、歴史、通学の安全性、そういった要素を考えながらより良い方向を考えて行きたい。そうしたときに必ずしも統合するという結論にはならない、そういったプロセスを取りたい。

Q 実施例で花島小や真砂地区の話が出たが、他に検討している、あるいは検討したところで「やらない」という結論になったところがあれば、その理由を含めて教えてもらいたい。

A 現在、地元代表協議会の話し合いをしているのが幸町、磯辺、千城台の3地区で、また、終了したのが真砂と高洲・高浜地区である。真砂は全ての小中学校の統合を進めることになった。高洲・高浜は数字上では小学校6校を3校、中学校2校を1校にということだったが、協議の結果として小学校6校を4校、中学校は継続協議となった。同じ時期に話し合いがスタートした幸町と磯辺は、数字上では小学校4校を2校、中学校2校を1校にということだった。磯辺は1・2・4小を統合するという方向が話し合われ、中学校は話し合いが続いている。幸町は1・2・4小を統合することになったが、中学校は片方が適正規模なので、今後も毎年新しい推計を見ながら継続して協議することになった。千城台については小学校の適正配置の必要性について現在協議を行っている。「やらない」という決定をしたところはなく、統合の決定に至らなかったものは継続協議として引き続き様子を見るところとしている。

Q 通学距離について、法によるものは長いと思うが、例外的に少数であればこの程度の距離も許容するというものなのか、標準的にはだいたいこれくらいというものがあるのか。この通学距離が決められている法律は何で、いつごろ定められたものか。計画

は白紙ということなので意見は控えたいが、旧花見川五小の跡施設をどうするという話がうらやましいと思っていて、柏井小地区には公共施設は小学校しかないの、我々としては守って行きたい強い気持ちを持っていることを伝えたい。

- A 通学距離についての根拠法令は、「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令」第4条1項である。これに示されている小学校4キロ・中学校6キロというのは非常に長いと我々も思っており、杓子定規に当てはめることは考えていない。我々も実際に歩いて、歩きやすさや危険な場所等を検討している。通学は安全確保、通学負担を十分勘案していく。

柏井小が唯一の公共施設なので残したいという話だが、適正配置は規模だけでなく、先ほどの地図で示されたように、花見川地区全体として適正な配置を探る。歴史や地域コミュニティを下敷きに皆さんに考えていただく、それがスタートである。

- Q 通学の安全の問題だが、弁天橋からこの花見川一中まで4キロ以上あり、その三分の二において、45センチ以内の道路を子どもたちが通っている危険な状態である。統合云々以前に、それを先に手をつけてもらいたい。こちらは教育、道路は道路部署ということではなく、役所全体で考えてもらいたい。

それから、跡地の問題、あたかも跡地をちらつかせて花島小は出来たという感じだが、それについても学校と並行して跡地の問題を考えていかなければならない。学校が終わってから跡地を考えようということは困る。

- A 市役所という組織全体でしっかり考えるとともに、関係所管にも伝えていきたい。

- Q 地元代表協議会とか、大きな場だけでなく、普段声を出せない人の声を聞く場も、たくさん設けていただきたいと思う。

- A 一例だが、千城台地区ではそういう場を設定して欲しいという声が小学校から出て、地元代表協議会と並行して意見を聞く場を設けている。花見川地区でも、協議会を開催しながら、意見交換し説明する場を作っていきたいと考えている。

- Q 資料の8ページの学校図に疑問がある。花見川二中の隣には天戸中もあるが、この図には載っていない。適正配置にはこれも含めるのではないか。

- A 天戸中也含めてという質問だが、教育委員会としては、まずは花見川一・二中区でという提案をさせていただいている。これは、地元のコミュニティの枠組みの中で話し合いをしていただくという考えである。話し合いの中で、学区調整も含めて話すということで今のようなご意見が出た場合には、枠組みも含めて再検討をするということになる。現在、天戸中は適正規模となっていることもあり、スタートとしては花見川一・二中区という枠組みでと考えている。

天戸中と花見川二中は各中学校区の端に位置しており、隣接しているので、2校を統合すればいいと思われる方が多いと思うが、天戸中は現在適正規模で、構成している長作小・作新小も適正規模（作新小は19学級で少し規模が大きい状況）である。仮

に花見川二中と天戸中が統合した場合、1中4小の構成になり少し規模が大きくなる。千葉市では57校の中学校があり、4小で構成されている中学校は5校あるが、花園中や蘇我中などは大規模校になる傾向にある。また泉谷中は過大規模校になることが予想されるため新設中学校が4月に開校する。天戸中と花見川二中が統合した場合、隣の花見川一中との規模のバランスが適正ではない。このような背景もあるので、まずは花見川一・二中の枠組みの中で議論していただき、天戸中区も含めた大きな学区調整が必要だということになれば、そういった方向も検討していきたい。

- Q 最初をお願いしたいが、私はようやく10人目で発言者になった。参加者それぞれの意見を聞くには一度の説明会では間に合わないので、再度の説明会をお願いしたい。花見川団地ができて43年、歴史的な沿革を教育委員会の方はよくご存知だろうか。苦勞しながらやってきた経緯がある。花見川二中と天戸中の話があったが、花見川地区の学校は花見川一中と一・二小で始まった。そういったことを認識した上で統合の問題を考えていただきたい。小規模校にメリットがあることはいろいろな先生から聞いている。デメリットが無いとは言わないが、小規模校のやり方のほうが教育にはいいということは知っている。昨日と今日、説明会が開かれたことは良かったと思う。柏井小の通学区域の話も出たが、説明にあったような小学生の通学路が4キロというのは決して短い距離ではない。統合したら花見川一小と花島小になるだろうと私は思うが、そう考えると弁天橋から小学生が通うこととなる。現在、花見川区で大変な問題になっている、み春野（宇那谷町の、み春野住宅地）の子どもがこてはし台小に通っているのを教育委員会はどのように考えているか。50分～1時間かけて通っている子どもたちもいる。

※み春野住宅地（宇那谷町 1500～1573 番地）の小学校通学区域は、地元要望により、平成14年度から、横戸小学校からこてはし台小学校に変更されました。

通学路の安全性の問題で、保護者も地域もいろいろと苦勞しながら、子どもたちの環境を整えてきた。柏井小が無くなった場合、ゴルフ場周辺の道路を子どもたちが歩くとなると、とても長い距離なので大変なことになる。今日は何も決まっていないということでいろいろと述べさせてもらったが、ぜひそういったことを含めて議論を進めていただきたい。地元代表協議会を設置して勝手にどんどん進めては困る。2年とはとんでもない、もっともっと時間をかけて話し合いをしてもらいたい。我々住民の避難所にもなるわけだからそういうことを含めて考えてもらいたい。

- A 地域への熱い思いは私共にも伝わってきた。地域が形成された歴史的背景や経緯、伝統や文化など、地域社会を大切に考慮しながら適正配置を進めるのは大前提である。小規模校のメリットも十分認識しており、それを生かしながらどのような学校づくりができるか、また、柏井小の通学負担や、柏井小の適正配置をどうするのかを含めて話し合っ行ってきたい。説明会はグループ単位でも要望があれば説明に伺いたい。2年というのは一つの目安で、たまたま他の地区では2年で合意されたが、2年以上かかる場合も、それより短くなる可能性もある。期間を切っいつまでに結論を出さなく

てはいけないというものではなく、皆さんが十分な協議の上で合意形成が出来ればと考えている。

目安は2年程度だが、3年が終わろうとしている地元代表協議会もある、磯辺などは第一次適正配置から話し合いをしているので、それも合わせるとかなり長い話し合いをしている。

Q 私の子どもは花見川五小の最後の卒業生だが、5年生の時から統合の話があり、その説明会で一番残念だったのは現場の先生方の声が聞けなかったことである。私たちは先生方がどう思っているのかも知りたい。そのような場は設けられないのかというのが1点。花見川四小と五小は隣り合っていて統合が決まったが、花島小が更に統合することになると、今思い返せば拙速に四小と五小を統合するのではなく、花見川全体として時間をかけて話し合うべきだったのではと思う。花島小は統合した時に改修してきれいな校舎になったが、統合しなくても改修をしてもらえないのかを聞きたい。

A 学校適正配置は現場の先生方の声を取り入れながら進める方向である。先生が一番子どもたちの様子を知っている。教育委員会としては地元代表協議会の話し合いの流れや内容については校長を通して先生方にお知らせしている。また、先生方からの意見も聞きながら協議会に示している。花島小の統合についても先生方の聞き取り調査等を行った。

地元代表協議会では、7つの学校で唯一の適正規模を保つ花島小も一緒に考えていただきたい。そのまま残すのか、統合を考えるのか、それ以外の選択をするのか、さまざまな可能性を含めて7校一緒に考えていただけたらと思う。

改修は必要に応じて行っている。耐震については基準に満たないものは工事を計画的に進めている。その他、修繕等についても子どもたちの安全を第一に考えて、担当課で対応しているので、気づいた点があれば学校を通して教育委員会に意見をいただきたい。